

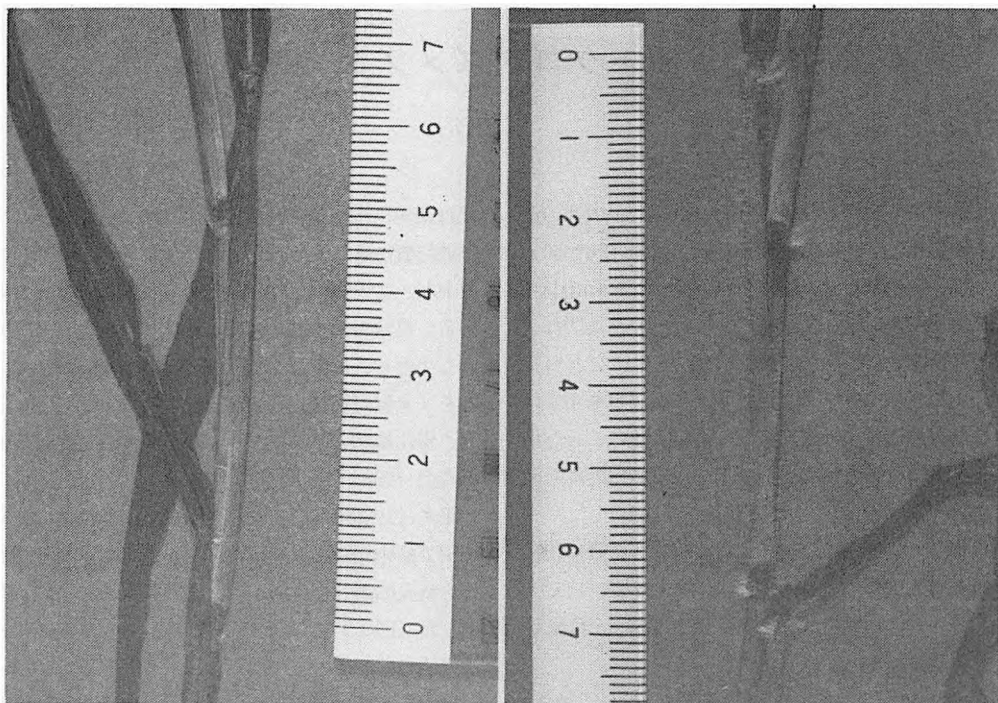


写真2. (左) 新潟県福島潟産「チクゴスズメノヒエ」の葉鞘. [Oct. 27, 1988採集, 標本番号12069.]

(右) 新潟県清五郎潟産「チクゴスズメノヒエ」の葉鞘. [Sep. 16, 1986採集, 標本番号3402.]

中であり、また湖水も汚濁していた。チクゴスズメノヒエは潟周辺の湿地に多く生育する。

福島潟は新潟市の東約17kmに位置し、行政上は大部分が豊栄市に属する。田園地帯にあるが、往時と比べ環境の変化が著しい。すなわち、かつての福島潟は新潟県内で最も広い淡水湖沼であったが、1976年に南側の約190haが干拓され、面積がそれ以前の約半分（約240ha）になった。さらに排水により水位が低下し、夏から秋にかけての水域は約25haだけである。チクゴスズメノヒエは、干拓地と潟面を仕切る堤防の水面側に1カ所、浮島状に群生する（1988年確認）。福島潟周辺にはチクゴスズメノヒエの他にも帰化植物のコカナダモが分布する（笹川、1988）。

福島潟産チクゴスズメノヒエの葉鞘の毛は、西日本のものほど顕著ではないと指摘された（角野、私信）。しかし清五郎潟産の葉鞘の毛は福島潟産のものより顕著であり（写真2）、清五郎潟産と福島潟産とは別系統かと思われる。

池田 一. 1974. キシュウスズメノヒエ (*Paspalum distichum* L.) における生態型の変異について.

宮崎大学農学部研究報告 21 (2): 309-313.

池上義信. 1986. 新潟県植物分布資料 (6), 4. 帰化植物. 新潟県植物分布図集 第7集: 403-406.

角野康郎. 1984. キシュウスズメノヒエの二型について. 植物分類, 地理 35: 182.

角野康郎. 1985. 兵庫県東播磨地方のため池における「チクゴスズメノヒエ」の分布. 雑草研究 30 (1): 47-49.

角野康郎. 1988. 岐阜県にも「チクゴノスズメノヒエ」. 水草研究会会報 (33・34): 51.

Katayama, T and H. Ikeda. 1975. Cytogenetical studies on *Paspalum distichum* Linn. Cytologia 40: 759-764.

笹川通博. 1988. コカナダモの生育. 新潟県植物分布図集 第9集: 434. 鳥屋野潟植物調査会. 1988. 鳥屋野潟植物調査報告書.

文献